陸上養殖の可能性について

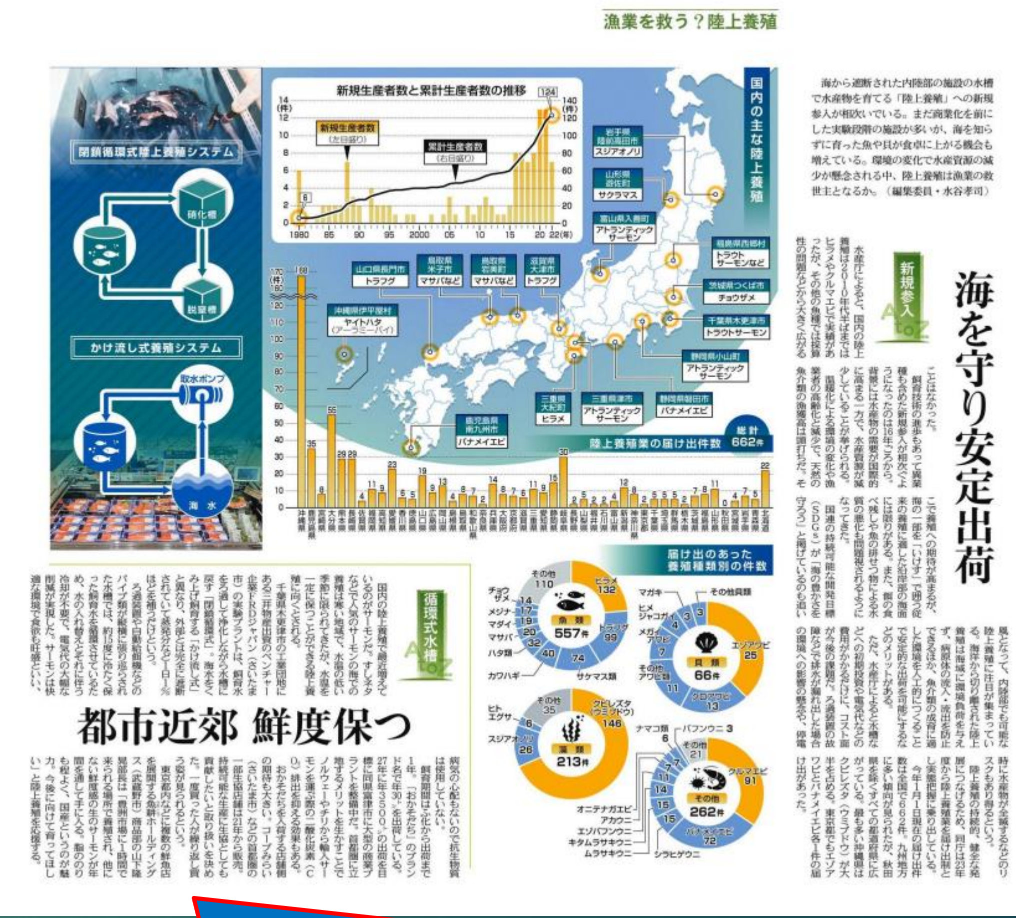
三保サーモンを養殖している水槽＝いずれも静岡市清水区で

陸上で養殖することで、アニサキスによる食中毒を予防できることは大きなメリット。（２０２２．２．１７）

使わなくなった建物の活用方法の一つとして面白いと思った。（２０２４．６．２７）

幼稚園だった建物を改修したトラフグ養殖場に設置された水槽＝いずれも兵庫県朝来市で

試食用に調理された「但馬とらふぐ」



陸上での魚介類の養殖が地域活性や品質保持、環境保護にも好影響を与えることが分かった。（２０２４．２．２６）

将来的にここで養殖されているチョウザメから、キャビアが取れることに期待したい!（２０２３．１１．０７）

タツノオトシゴの養殖は観賞用かと思ったが、漢方薬の材料とは知らなかった！また、海外の養殖された水産物が日本に輸入されるケースは耳にしたことがあるが、逆のパターンは今まで聞いたことがなかった。（２０２０．７．２５）

東海大海洋学部で養殖の研究が進むタツノオトシゴ＝静岡市清水区で

海に面していない山間部でトラフグが養殖されているという話は聞いたことがあったが、これほど多くの陸上養殖がなされているとは思わなかった。また、陸上で養殖することによるメリット・デメリットについても考えさせられた。

地球温暖化による環境問題、魚介類の乱獲や海洋汚染による漁獲高の減少など、日本だけでなく世界全体で考えていかなければならない課題を考えたときに、陸上養殖は一つの有効な手段であると考えられる。生産量の安定や環境条件の管理、出荷までの地理的な柔軟性による輸送コストの削減などの数多くのメリットを活かすとともに、初期コスト・運用コストの高さだけでなく、排水処理の問題などを解決していく必要がある。

まだまだ解決しなくてはならない課題も多いが、陸上養殖は持続可能な水産業の一つとして今後も研究が進むことを期待したい。単に水産資源の確保だけではなく、その地域に雇用を生み出し、また、名産品としてのブランド化など、地域の活性化にも一役買うことができるのではないかと思う。